

# ほかにたくさん 岩手の伝統工芸品・ものづくり

## こくじやき(久慈市) 小久慈焼

地元でとれるねん土を材料に、稲わらの灰や砂鉄をうわぐすりに焼き物をつくっています。



## だいやき(花巻市) 台焼

温泉の水で土の鉄分を取り、白い磁器をつくったのが始まりで、うす緑の色合いが特ちょうです。



## ざいく(一戸町) 竹細工

二戸地方の山でとれる「すず竹」は、細く弾力があり、ざるやかごなどがつくられています。



## あけびづる細工(西和賀町)

野性のアケビヅルを丸ごとかごに編みます。冬の仕事としてさかんにつくられていました。



## こけし(盛岡市、花巻市、西和賀町)

遠刈田系湯田こけし、南部系寛平こけし、南部系こけし、盛岡のこけし、雪やけこけしなどがあります。



## はなまき(花巻市) 花巻人形

ねん土でつくる人形で、おひなさまや宝船などがあります。



## くじこはく(久慈市) 久慈琥珀

久慈地方は全国でも有数の琥珀の産地です。琥珀を加工して指輪などをつくっています。



## マリンローズ(野田村)

日本では野田村でしかとれないマンガン鉱石を加工したものです。



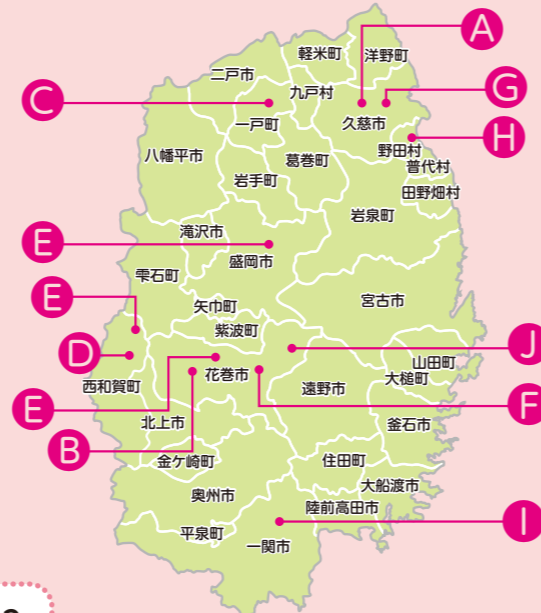
## とうざんわし(一関市) 東山和紙

約800年の伝統をもつ和紙ですが、現在手すきをしているのは3人ほどです。



## なるしま(花巻市) 成島和紙

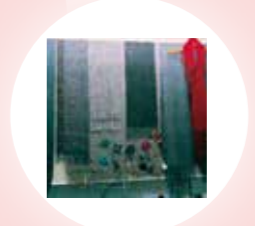
1000年以上前からつくられてきた和紙で、今は和紙工芸館でつくられています。



さが探してみよう!

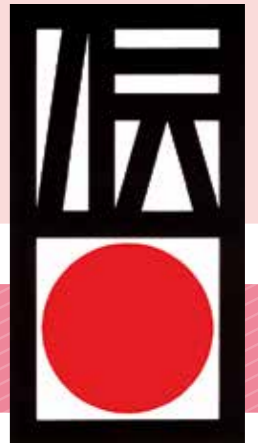
くらしの中の伝統工芸

# 伝えたい 岩手のものづくり



探してみよう あなたのうちにはどんな伝統工芸品があるかな?

# 岩手の伝統工芸品



伝統マーク  
承認番号  
28-292

家に伝統工芸品は  
あるかな?

## やかん



どちらも  
お湯をわかすもの  
だけど...

## 南部鉄びん



- 大量生産することが多く、南部鉄びんより値段が安い。
- 鉄びんに比べて軽い。
- お湯がさめやすい。



- 手づくりでいていねいにつくっている。
- お湯がさめにくい。
- お湯の味がまるやかになるといわれている。

調べよう 調べよう ぶつうのやかんと南部鉄びんでは、ほかにどんなところがちがうかな?

## 一般的な家具



どちらも  
服をしまうもの  
だけど...

## 岩谷堂筆筒



- 合板（うすい板を何枚か組み合わせる）でつくられるものが多い。
- 機械加工のものが多い。



- 材質は桐やケヤキが多い。
- 手づくりでつくることが多く、1つつくるのに約2か月かかる。
- 金具がついているのが特ちょう。
- じょうぶで長く使える。

調べよう 調べよう 一般的な家具と岩谷堂筆筒では、ほかにどんなところがちがうかな?

伝統工芸品って、  
美しいね。



美しいだけじゃなく、  
使って便利なんだよ。

## 伝統工芸品ってどんなもの?

岩手県は、海にも山にもめぐまれた自然豊かなところ。1100年代には藤原氏による黄金文化が栄えました。江戸時代には、北部は南部藩、南部は伊達藩により治められ、独特の文化を形成してきました。

そういう風土の中、くらしを豊かにする道具や装飾品がつくられ、改良されながら、現代に伝わっています。こうして伝えられ、現在も使われているものが伝統工芸品です。

国の伝統的工芸品に指定される要件は主に右の5つです。

国が指定する  
「伝統的工芸品」って何?

- 主として日常生活で使われるもの
  - つくる過程の大部分が手作業で行われる
  - 伝統的技術または技法によってつくられる
  - 伝統的に使用されてきた原材料を使う
  - 一定の地域でつくられている
- 伝統的というのは、100年以上続き、今日まで続いていることだとされています。

岩手県で国の伝統的工芸品に指定されているのは、南部鉄器、岩谷堂筆筒、秀衡塗、浄法寺塗の4つです。

1. 母親: これは秀衡塗っていうの。お母さんが、およめに来た時からあるのよ。  
子供: このきれいなおあんはなんていうの?

2. 母親: 新品みたい!  
子供: うるしが何重にもぬられていてじょうぶで使いこまほしい色が出るそうよ。

3. 母親: 伝統工芸品っていうのよ。  
子供: 岩手には昔からつくり続けられているものがたくさんあるの。

4. 母親: これも何十年も使ってる南部鉄びん。お茶の味がちがうでしょ。  
子供: まるやか〜。



# 岩手の伝統工芸品を学ぼう!



# 「岩谷堂筆筒」

## 岩谷堂筆筒の特ちょう

どんな特ちょうがあるの?



特ちょうの1つ目は光沢のある色。これはうるしを何度も重ねて塗るために出た色で、使うほどに光沢が増します。2つ目は金具。古くからのデザインである「唐草」「龍」「唐獅子」を手彫りでついたり、鋳型に鉄を流しこんでついたりしています。3つ目はじょうぶであることです。

伝統の技をよく学ぼう。



聞いてみよう 岩谷堂筆筒を使っている人に、どんなところがいいか、聞いてみましょう。

## 岩谷堂筆筒の歴史

どんな歴史があるの?



どこでつくっているの?

藤原清衡が奥州を支配していた1100年代が起源といわれており、当時は大型の箱のようなものをつくっていたそうです。その後、1780年代に岩谷堂城主・岩城村将が家臣にたんすの製作や塗装の研究をさせ、1820年代前後には徳兵衛という鍛冶職人が彫金金具をつくりました。これらがもとで、今の岩谷堂筆筒があるのです。

調べよう 岩谷堂城のとの様は、なぜ、たんすづくりをすすめたのでしょうか。

## 岩谷堂筆筒の生産地

岩谷堂筆筒は古くから奥州市江刺区を中心につくられてきました。いまは盛岡市の手づくり村でもつくっています。



## 岩谷堂筆筒ができるまで

どんな風につくっているのかな?



じょうぶで美しく、使いやすい岩谷堂筆筒は、すぐれた技術をもつ職人さんたちの手により、およそ2か月かけて、ていねいにつくられます。

- 1 木材の乾燥**  
材料となる木材と木材の間に横木をはさんで風通しをよくし、何年も乾燥させます。
- 2 木取り**  
設計図に応じて、たんす枠や引き出し用など指定の大きさの材料をつくります。
- 3 組み手加工**  
くぎなどは使わず、接合部がしっかり組み合うようにのみなどを使った手作業で組み立てます。
- 4 うるし塗り**  
木べらを使って塗ってはふき取る作業を10日ほどかけて、およそ7回くり返します。
- 5 金具作り**  
紙に下絵を描き、それを銅板(あるいは鉄板)にはり、たがねを使って銅板に模様をつくります。またうらからもたいて立体的にし、さらに絵柄を切りぬきます。
- 6 金具の取り付け**  
たんす本体に、彫金した飾り金具や引手を取り付けて完成です。

完成!

## 菊池崇志さん(36歳)

どんな人がつくっているのかな?



藤里木工所に勤めて、まもなく20年になります。たんすを組み立てるまでの木地加工を中心に仕事をしています。今は会社の会長の手伝いもさせてもらっており、日々新しい技術を教えてもらっているので、むずかしいですが、やりがいを感じています。



## 見直されている岩谷堂筆筒の魅力

どんな人が買っているのかな?



岩谷堂筆筒は、平成9年ごろまでは順調に売り上げが伸びていました。しかし、和室の部屋が少なくなるなどくらしが洋風化するにつれ、だんだん売れなくなりました。ところが東日本大震災が起こったとき、多くの岩谷堂筆筒が津波にのまれてもほぼそのままの形で残っていたことで価値が見直されました。いいものを長く使いたい人たちに岩谷堂筆筒は愛用されています。



出荷を待つ完成した岩谷堂筆筒

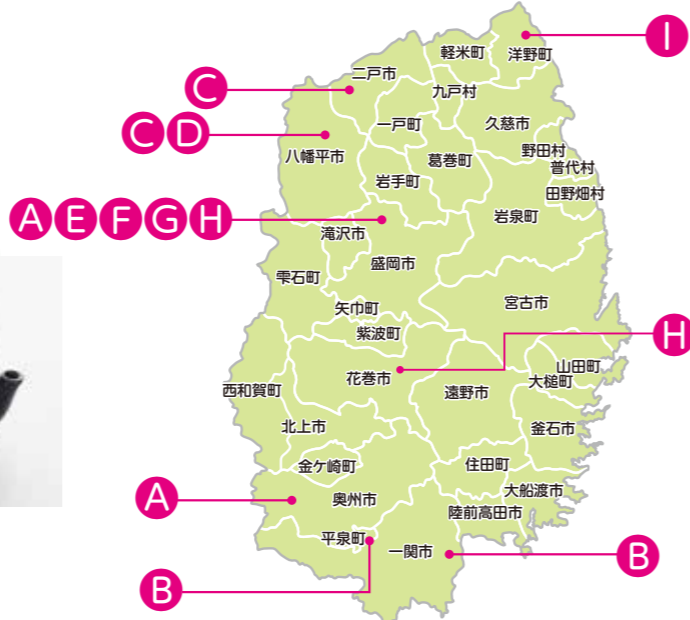
# たくさんあるね 岩手の伝統工芸品

岩手県は海にも山にもめぐまれ、さらに金や鉄などの資源が豊富です。また、9000年も前の縄文時代からうるしを使った装飾品が使われるなど、古くから工芸品づくりが行われていました。そのため現在でも各地で工芸品が作られています。

## 金工品

### A 南部鉄器 (盛岡市・奥州市)

南部鉄器が作られ始めたのは、奥州市水沢ではおよそ950年前、盛岡市では約400年前といわれています。南部鉄器は今や日本だけでなく海外でも人気です。



## 漆器

### B 秀衡塗 (一関市・平泉町・他)

1100年代に、奥州藤原氏第3代当主藤原秀衡が特産のうるしと金をふんだんに使い、器をつくらせたのが始まりとされています。その技術が応用され、様々な製品が作られています。



### C 浄法寺塗 (二戸市・八幡平市・他)

(二戸市・八幡平市・他)

700年代、天台寺に派遣されてきた僧侶がうるしを使った技術をつたえ、人々が使った「御山御器」が始まりといわれています。



うるしの研修中

### D 安比塗 (八幡平市)

かつては浄法寺塗の産地でしたが、安比塗という新ブランドを立ち上げています。そぼくな美しさが魅力です。漆器職人の育成もしています。



## 染物

### E 南部古代型染 (盛岡市)

1600年代に使われた型が現在も保存されています。それに基づくデザインと昔ながらの技術で、現代にマッチした製品を作っています。



型染めに使用する型紙づくり

### F 紫根染 (盛岡市)

ムラサキという植物の根を使って染めた草木染です。もようは800種類以上あり、使えば使うほど変わっていく色も魅力です。



昔ながらの技術とデザイン

## 織物

### G 南部裂織 (盛岡市・他)

「裂織」は使い古した布を細く裂き、織りこんで衣服や生活用品をつくる南部地方に昔から伝わる織物です。この技法をいかして、新しい製品が作られています。



### H ホームスパン (盛岡市・花巻市)

羊の毛をそのまま染め、手でつむいで織ったスコットランドやアイルランドの織物です。明治時代に岩手に伝えられ、今では日本一の産地となっています。



## 木製品

### I 大野木工 (洋野町)

木工ろくろを使った手づくりで温かみのある製品が作られています。特に給食器が好評で、全国160か所をこえる保育園で愛用されています。

